

科目名称:ソーシャルワーク実習Ⅱ					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、杉山 正樹、岡村 綾子、西 郁代子、荻原 園子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	選択	3	社会福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		14214089
<p>授業概要:①ソーシャルワーク援助過程の実践を通じての理解。 ②利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成と実施及び評価。 ③利用者やその関係者との援助関係の形成。 ④社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解。 ⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。 ⑥施設・事業者等の経営やサービスの管理運営の実際。 ⑦利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 ⑧ソーシャルワーク実践に求められている技術の実践的理解(アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ソーシャルアクション)</p>					
<p>到達目標:① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力の基礎を習得する。 ② 支援を必要とする人の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行うことができる。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>レジデンシャル・ソーシャルワーク実習の第2段階である「職種実習」「ソーシャルワーク実習」として実施する 「職種実習」(おおむね第1週) 「ソーシャルワーク実習」(おおむね第2週～4週) ※「職種実習」と「ソーシャルワーク実習」あわせて18日間 ・ソーシャルワーク援助過程の実践を通じての理解。 ・利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成と実施及び評価。 ・利用者やその関係者との援助関係の形成。 ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解。 ・多職種連携及びチームアプローチの実践的</p>			<p>実習の振り返り。 次の日の実習目標を立て、達成課題を明らかにする。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容をしっかり理解して実習に臨むこと。ソーシャルワーク実習Ⅰにおける到達点と課題を明確にしておくこと。					
課題に対してのフィードバック:実習期間中の巡回指導及び帰校日の際に、諸記録の点検・指導を行う。					
評価方法・基準:実習施設・事業からの評価、実習態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から実習指導Ⅱのオリエンテーションで案内する。					
教科書:参考書:担当教員より必要に応じて案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年) 社会福祉士(杉山 正樹 病院の医療ソーシャルワーカー9年、老人保健施設の相談指導員4年)					